

ふじさわ環境白書2026（一次案） 事前質問回答書

2026年8月12日
第8回環境審議会
資料 7

審議会 委員	担当課	反映 判断	部	章	節	項	目	頁	意見・質問	回答																				
矢出 委員	下水道施設課	反映	2	I	3	(2)	⑩	73	⑩下水汚泥の有効利用の「令和7年度 下水汚泥の有効利用実績」の表 「有効利用の形態」を右端の欄か、または「発生施設」と「搬出形態」の間の欄に。「有効利用の形態」と「排出形態」の間に「発生施設」欄があると、見づらいように思えます。 <table><tr><td>発生施設↩</td><td>搬出形態↩</td><td>排出量↩</td><td>有効利用の形態↩</td><td>↩</td></tr><tr><td>辻堂浄化センター↩</td><td>焼却灰（乾灰）↩</td><td>661↩</td><td>建設骨材↩</td><td>↩</td></tr><tr><td></td><td>焼却灰（加湿灰）↩</td><td>3↩</td><td>菌体りん酸肥料↩</td><td>↩</td></tr><tr><td>大清水浄化センター↩</td><td>↩</td><td>↩</td><td>↩</td><td>↩</td></tr></table>	発生施設↩	搬出形態↩	排出量↩	有効利用の形態↩	↩	辻堂浄化センター↩	焼却灰（乾灰）↩	661↩	建設骨材↩	↩		焼却灰（加湿灰）↩	3↩	菌体りん酸肥料↩	↩	大清水浄化センター↩	↩	↩	↩	↩	ご指摘に沿った形で修正いたします。
発生施設↩	搬出形態↩	排出量↩	有効利用の形態↩	↩																										
辻堂浄化センター↩	焼却灰（乾灰）↩	661↩	建設骨材↩	↩																										
	焼却灰（加湿灰）↩	3↩	菌体りん酸肥料↩	↩																										
大清水浄化センター↩	↩	↩	↩	↩																										
矢出 委員	下水道施設課	反映	2	I	3	(2)	⑩	73	⑩下水汚泥の有効利用の「令和7年度 下水汚泥の有効利用実績」の表 辻堂浄化センターの排出量がない脱水ケーキは削除したほうが見やすい。																					
矢出 委員	下水道施設課	反映	2	I	3	(2)	⑩	73	⑩下水汚泥の有効利用の「令和7年度 下水汚泥の有効利用実績」の表 トピックスである「菌体りん酸肥料」については本文に、その重要性等を記載した方が良い。	「菌体りん酸肥料の取り組み」につきまして、追記いたします。																				
矢出 委員	道路維持課	反映 せず	2	II	1	(1)	⑩	104	⑩街路樹の維持・管理の説明文 白書の変更箇所ではありませんが、公園の樹木も同様ですが、「快適な道路空間」の中に野鳥や倒木被害回避の処置や対策が含まれるかと思いますが、特に倒木リスク低減の甘楽蚊の記載が必要かと思います。	街路樹については、大径木化しやすい樹種（アオギリ・ケヤキ・サクラ類・シダレヤナギ・ユリノキ）に関して、概ね5年程度のサイクルで「樹木医」による点検・診断を行い、危険木の早期発見に努めている旨を、『藤沢市街路樹管理計画』（P.9、P.34）に記載しております。また、野鳥に関しても（主にムクドリ）対策について同計画（P.31）に記載しております。																				
矢出 委員	2段落目 道路整備課	反映 せず	2	V	5	(7)	③	226	エ 街路樹の説明文 同上（⑩ 街路樹の維持・管理）	同上																				
矢出 委員	それ以外 道路維持課																													
矢出 委員	環境保全課	説明	2	II	2	(1)	⑧	114	⑧鳥獣の管理の説明文 白書の変更箇所ではありませんが、白書に載せられるかどうかは別にして、審議会で質問させていただいたように、ハクビシンなどの対策の1つに空き家対策が重要かと思います。すぐに市でできること、できないことがあるかと思いますが、方向性は明確にした方が良いかと思います。	市では、野生鳥獣の棲み処である緑地での捕獲圧力を高め生息数を減らすことで、住宅地の生活被害を減少させる取組をしています。 空き家につきましては、所有者・管理者の対応となるため、住まい暮らし政策課を通して周辺住民等から市に相談があった旨を通知しています。																				

審議会 委員	担当課	反映 判断	部	章	節	項	目	頁	意見・質問	回答
橋詰 委員	環境保全課	反映	2	I	1	(2)	⑥	48	⑥アスベスト調査の「環境調査結果（年1回3日間測定）」の表 脚注に「0.0056 本／L は検出下限値」といった説明を加えるべき。	ご指摘のとおり、追記いたします。
橋詰 委員	環境保全課	反映	2	I	5	(2)	③	86	③海水及び河川水の放射能濃度の「令和7年度海水及び河川水の核種別放射能濃度の測定結果」の表 その次の表と同様に、単位「Bq/kg」を記載。なおその評価について、放射性セシウムに関する水道水の管理目標値10Bq/kg（=10Bq/L）を（本文に）併記した方よいのでは。	ご指摘のとおり、追記いたします。
橋詰 委員	みどり保全課	反映	2	II	1 ～ 3			100 ～ 129	森林保全等のみどりの保全対策の記述全般について温暖化対策の側面もあることを、どこかに明記すべき。原案ではp120の「エ 目標水準」において「カーボンニュートラル」が唐突に出てくる感じ。	ご指摘のとおり、P.100の「★達成指標に対する本年度の状況★」の表の「概要」に追記いたします。
橋詰 委員	環境施設課 （北部 環境事業所）	反映	2	III	2	(1)	②	145	②特定処理品目の適正処理の説明文 R8年4月からの実施だが、次（の枠）の火災との関連で充電式小型家電については「危険ごみ・テープ類」に変更したことを「なお書き」でも付記すべき。	内容については分別の変更となりますので、担当課である環境事業センターと調整し、掲載場所を含めて検討いたします。
橋詰 委員	環境施設課 （石名坂 環境事務所）	反映	2	III	2	(1)	③	147	イ 破碎処理施設の説明文 リサイクルプラザにおける火災の発生について、資料253頁の広報ふじさわ記事の見出し紹介としては12月8日リチウム電池との関連で火災発生と記載されているものの、本文中にはそこまで触れられていない。147頁の「イ 破碎処理施設」あたりできちんと書くべき。	ご指摘のとおり、「2025年9月のリサイクルプラザ藤沢における火災事例」を本文に追記いたします。 掲載場所や構成については、より効果的な啓発につながるよう調整して反映いたします。
橋詰委 員	環境総務課 （廃棄物・ 美化担当）	反映	2	III	2	(3)	⑧	156	ウ ピックアップ回収の「「小型家電リサイクル法」の回収実績」の表 合計も記載すべき。	ご指摘のとおり、「合計」を追加した表に修正いたします。
松浦 委員	環境総務課 （総務担当）	説明	2	III	1	(3)	①	142	「環境基金の状況」の表 2025 年 4 月の組織改正でゼロカーボン推進課を新設して、地球温暖化対策に積極的に取り組んでいる中で、「ゼロカーボン推進補助事業費」が令和5年以降、減り続けているのはどうか？	令和6年5月に、環境省の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）」（交付期間5年間）に採択され、8月からは交付金を活用した自家消費型の補助制度等を追加いたしました。 ゼロカーボン推進補助事業費における環境基金は、主に地球温暖化対策設備に対する補助金に充当しておりますが、令和6年度以降は交付金を活用した補助金への申請が多く、環境基金の充当額が減少しました。 なお、令和5年度補助実績額が21,787千円に対し、令和7年度は96,146千円と実績額としては増加しています。

審議会 委員	担当課	反映 判断	部	章	節	項	目	頁	意見・質問	回答
松浦 委員	環境総務課 (総務担当)	反映	2	III	1	(3)	①	142	<u>「環境基金の状況」の表</u> それぞれの事業費の財源が環境基金だけではないと思うが、何も説明がないと、「環境基金の取り崩し額（充当額）の多寡＝施策の力点」と取られる可能性があるのではないか？	ご指摘の内容を踏まえ、反映を検討いたします。
松浦 委員	環境事業 センター	反映	2	III	2	(3)	⑥	155	<u>⑥日本容器包装リサイクル協会からの合理化拠出金の「本市における合理化拠出金受取実績」の表</u> 表の下に、「※ 令和 5 年度はリサイクル費用の想定額を現に要した費用が上回ったため合理化拠出金が発生したが、令和 3 年度、令和 4 年度、令和 6 年度には合理化拠出金が発生せず、実績は 0 円となっている。」とあるが、表中の数字は、令和 3 年度、令和 4 年度は 0 円だが、令和 6 年度は 0 円ではない。表中の数字と表下の※のどちらが正しいのか？「ふじさわ環境白書 2025」では、同じ表（p154）で令和 6 年度の実績は 0 円となっている。	令和 6 年度は当該拠出金の拠出があったため、表中の数字が正しく、表下の※が誤っていました。 ご指摘のとおり、※表記の文を修正いたします。
松浦 委員	ゼロカーボン 推進課	反映	2	V	0	(2)	③	183	<u>エ 運輸部門の説明文</u> 説明の 3 行目から、「平成 25 年度比で、藤沢市におけるバスの保有台数は減少していますが、乗用車、貨物自動車の保有台数は増加しています。」とあり、その後で、6 行目から、「藤沢市では前年度に引き続き乗用車、貨物自動車の保有台数が増加していますが、バスの保有台数は減少しています。」とあるが、同じ内容なのに、平成 25 年度比と前年度比で、「バス」と「乗用車、貨物自動車」を入れ替えているのはどうしてか？わかりにくいのではないかと。同じ内容であれば、重ねて書く必要はなく、前年度比について言及する必要があるのであれば、「平成 25 年度比、前年度比ともに、藤沢市における・・・」などとまとめて記載してもいいのではないかと。	ご指摘のとおり、平成25年度比と前年度比で運輸部門の傾向が同じであるため、記載方法について検討いたします。